

チュチェ思想の見地を見た今日の課題にたいする民主コンゴ青年の任務

民主コンゴ・チュチェ思想研究全国協会書記次長

民主コンゴ自主の会会長

ジョナサン・ウムパラ・カロнда

民主コンゴ人口の大部分は、少年期と中年期の間の生活期間をもつ青年期の人から構成されています。

民主コンゴは各部門、つまり公共安全、保健衛生、生態環境、社会教育、技術分野の発展で大きな挑戦に直面しています。

民主コンゴは地質学的宝庫としてコバルト、亜鉛、銅、錫、ダイヤモンド、ボーキサイト、ウラニウム、石油など多種の鉱石がある、潜在力の大きな国であり、動物の種類も非常に多様であるばかりか森林資源も豊かで熱帯雨林など、世界第2の肺であるということができ、耕作地も広く234万5000平方メートルの面積をもった国です。

また、コンゴは地球でもっとも大きな湖水の一つであるタンガニーカ湖を始め、湖と世界的に第2の流出量をもつ北南のほとんどの領土を潤すコンゴ川とその支流をもっています。

しかし、残念にもコンゴが独立し、国際的な自主権を獲得してから60年が過ぎましたが、人民はもっとも悲惨な貧困にあえいでおり、世界で最も貧しい国のひとつになっています。

コンゴが持っている巨大な潜在力を、すべての共同体の利益のための持続的な発展に変えていくためには人間、特に青年が中心に立たなければなりません。

なぜなら青年は社会の未来であるからです。しかし、ただの青年ではなく、よく準備された青年でなければなりません。

われわれの大部分の青年が、資本主義政治体制と風俗を盲目的に真似ながら、資本主義の影響を受け、怠惰をむさぼるのを見るのは実に胸痛いことです。これは致命的な毒薬です。

真理はただ一つ、金日成主席が創始したチュチェ思想のみが民主コンゴ青年たちが、墮落の深淵から抜け出て、全民族に平和と持続的な発展が保障される強くて裕福なコンゴを建設するようにする源です。

金日成主席はわが青年にとって偉大な亀鑑であり、勇敢さと勇気の優れたモデルです。

朝鮮の自主権を取り戻す熱望を抱いて15歳にもならない年に早くから革命の

道に身を投じ、いかなる外国勢力の支援もなしに自己の力量に頼った武装闘争の方法で民族解放の偉業を成就することを提案し、抗日遊撃隊を作り、日本帝国主義との戦争を宣言したことを歴史は記憶するでしょう。

15年以上の武装闘争の末、金日成主席は外国の支援なしに日本帝国主義を打ち倒し1945年8月15日朝鮮を解放しました。

金日成主席は労働者、農民、インテリをはじめさまざまな社会階層の人民大衆の利益を擁護し、実現する人民政権建設の道を切り開きました。

また金日成主席は一方、国防力強化を国家存立の重大な事業と見なしてその発展に第一義的力を入れ、今日朝鮮を誰も会えて手出しできない軍事強国に作り、他方では自立的民族経済を建設して今日は国をいかなる世界的な経済波動にも微動だにしないようにしました。

民主コンゴの青年は、金日成主席が創始したチュチェ思想を自分のものにして国家活動に具現し、わが社会の实情に即して適用することにより、わが人民大衆の高い期待に報い、わが国が直面した挑戦にも解答を与えなければなりません。

そうして民主コンゴの青年ばかりでなくアフリカ諸国の青年がそれを参考するようにしなければなりません。

人間がすべての主人であるという哲学的原理は、いわば、人間が世界と自己の運命の主人であるということ、歴史の主体であるということです。

自主性、創造性、意識性を持った社会的存在である人間は、自分の住んでいる社会と一緒に自己の共同体を変化させて蒙昧をなくし、人間による人間の搾取を根絶しなければなりません。

そうして、自主性のための人民大衆の闘争によってアフリカとともに民主コンゴ全体が解放されなければなりません。ほかならぬ彼らによって自然が改造され、彼らの幸せと社会的進歩のための財貨が創造されなければなりません。

そのためには民主コンゴの若い世代であるわれわれが、チュチェ思想に対する研究を深め、若者たちがこの思想に興味を持つよう、大学と各社会部門に組織を作らなければなりません。アフリカのほかの国でもこのようにしなければなりません。